

# オホーツクの風

発行所

北見赤十字病院の  
明日を考え支援する会  
事務局

北見市緑ヶ丘1-10-16

Tel 0157-61-0684

平成26年2月26日(木) ウィンター特集(0010号)



## 平成26年度第5回総会記念 きたみ医療サミット ウィンター

北見赤十字病院では、新病院の開院より一足早く、「オホーツクPETセンター」が、4月1日にオープンします。その概要とがん治療の最新情報を勉強すべく、同院吉田院長、武内北見市地域医療対策室長を招き、平成26年2月3日、同院講堂で平成26年度第5回総会記念「きたみ医療サミット/ウィンターPETセンターはオホーツクの宝物」を開催した。

### ペットセンターの概要

逢坂 北見赤十字病院「オホーツクPETセンター」の施設概要やそのオープンの予定などを吉田院長にお聴き致しました。

吉田 北見赤十字病院の明日を考え支援する会にはいつもお世話になっていこと感謝していま

しました。職員で書道に覚えのある人の習字です。玄関の横にそれを設置して、建物の東側には「北見赤十字病院オホーツクPETセンター」と名前を入れました。

オープンは4月1日の予定です。施設の概要ですが、ペット画像に癌の細胞が見えるようにするお薬を作る装置・サイクロトロン

外部の方の意見をたくさんいただき、出来るだけこれをおこなえようと、今回その中で一番要望が高かったのがPETCTでした。このPETCTセンターが実際に検査できる運びとなりました。北見市や北見市議会、管内の市町村の方の厚い支援があったからだと感謝しています。その支援を忘れないようにと、職員皆で相談して定礎銘板の題字を「感謝」に

待合室は10室ぐらいいあります。仕切られていて検査をするのを待たたりするところ。お薬を作る「サイクロトロン」というのは大変いい機械で、メーカは住友重機です。PET/CT撮影装置はシーメンス社の「True Point」という機器

です。逢坂 ここで行政の立場からPETセンターの設置までのご苦労などお話を願います。竹内 ペットの導入において行政としてどういった苦労があったかということですが、吉田先生のご苦労の賜物であつて、行政としては苦労はないんですが、北海道には6つの3次医療圏があつて、



ここはオホーツク第3次医療圏です。全国第3次医療圏の中でペットが導入されていないのがここだけだったので。新病院を構想するとき、吉田院長先生は「こんな病院にしたいプロジェクト」を立ち上げ、谷川会長さんその委員になって下さいました。市民やいろいろな団体から、「新しい(第2面に続く)

い日赤病院をこうして欲しい」という要望をたくさんいただいたわけですが、そのなかで谷川さんのこの会などからPET-CTを是非入れて欲しいという要望が、あがってきたわけです。そういった中で是非やろうと言うことになったんです。

### ペット検査の受診

今立派なペット棟が出来て開院の準備も整い、私どもとしても4月の開院を期待しているところです。

診はしなくて良いのでしょうか。吉田 ペットは基本的に総合癌検診です。でも、前立腺は駄目なものもあります。婦人科の癌でも駄目なのが少し入っていると思います。荒田 初歩的で恥ずかしいですけど、私自身40年以



上糖尿病なので、そういう人がPETを受けるのはどうでしょうか。吉田 やる前に血糖値を測らしてもらいます。コントロールされている糖尿病は全然問題ありません。荒田 現在、夫が大腸がんを手術して3年目で、化学治療を4階で受けているんです。

先生がちよっと大きくなっているかどうか確認したいので旭川でPET-CT診断をしてくださいと言われて、去年行って来たんです。具合が悪いので、今車が壊れないので、車で行くんです。本当に大変だったんです。

### 北見の医療の未来

逢坂 北見市は新病院・PETセンター・道立病院・ドクターカー・ヘリポートなど恵まれた医療環境になります。吉田院長そして竹内室長に夢や未来に向けたの発言をお願いします。

吉田 僕は北見赤十字の院長ですから北見赤十字病院が良くなるのが夢なんです。働く職員も満足度の高い病院を作りたいと思っています。しかし一方、つくづく思うのは地域とか地域住民の方の喜びとか、満足度なしにうちの病院の発展はないと思っています。

には他人の立場を認めて、それぞれの立場でしっかりやって、自分本位でなくて人を助けて、他の人のために組織がある。そういう意味では我々はいへんな役割を与えられていますので、その役目を是非まっとうしようと思つていきます。どこまでできるかわかりませんが最大のことをやっていきたいと思つてます。

軽い病気になるのも重い病気になるのも、ここでよかつたなと思える地域作りを皆さんと作りたいと思つています。そういう一つの重要な時期に入ってきているし、是非そうなるし、欲しいと思つて欲しいと思つてます。

竹内 今の吉田先生の言葉に尽きるところです。北見赤十字病院と道立病院の2つの公立・公的病院が、医療連携して行こうというこの取り組みはお



同時に1次救急を行政としてはしっかり担っていかなければと思つています。そのことによつて24時間北見に住めば安心だと、北見に住んでいけば病気になるっても大丈夫だ、安心だと思つていただけ、そういう街作りをしなければいけないと思つています。

谷川 今日は院長先生、竹内室長をお迎えして予想を何倍も超えるお話が出来たなど、うれしく思つています。有り難う御座いました。一同 ありがとうございます。

《出席》吉田院長(北見赤十字病院)、廣川総務課長(同)、佐藤主事(同)、竹内室長(市地域医療対策室)、谷川(会代表)、逢坂(会員)、森實(同)、阿久津(同)、阿部孝(同)、表(同)、長南(同)、荒田(同)、中田(同) 以上

看護部門の概要や看護師の日常業務を学び、感謝すると共に、新病院への取り組みを聴き、開院後の看護部門をイメージしようとして、平成26年1月29日、病院会議室で、上野看護部長(北見赤十字病院看護部)を迎え「ウィンターミーティング」看護部長を囲んで」を開催した。

### 内部体制

逢坂 最初に看護部門に所属する人員や配属先として、その組織の運営で、日頃、思っている事などお話しします。

上野 看護部門は病院の中で最大の部門で、保健師数名、助産師20数名、看護師は480名ほどで男性の看護師が20数名、准看護師40数名、看護助手・クラークが70名余りで、総数は600数十名となり、病院全体で約1000人の中の6割が看護部ということになりま



平成26年2月12日 撮影

## ウィンターミーティング「看護部長を囲んで」

その他の部門となりま

す。ドックの健診部に健診担当。後はいろんな事故などや感染などから職員や患者さんを守る医療安全推進室にも師長がおりま

ツフというように、組織がきちんとしていますし、部長と師長との間には3名の副部長がきちんとサポートしてくれてい

要だなと思っ

れ以外のことはサポートしていき

は精神科・産科母子センターなど、これ以外に外来や手術室などに配属されて

看護部のラインではないのですが、医療社会事業部に保健師長がいて退院支援

谷川 5年前までなかつたのですか。

上野 新しい病院ということではPETCTをはじめ、緩和ケアの病棟です



上野 新しい病院ということではPETCTをはじめ、緩和ケアの病棟です

棟が2つ増えます病棟が2つ増えるということはそれぞれ30人ぐらいつつ必要になってきますので、60人ぐらいは配置しなければいけません。

そんなに応募自体がありませんので、いまいる人の中で人材をどんな風に工夫するかというのを考えておりました。そして半年後の9月、どんな風にしたら良いかということ、2段階に考えている最中でございます。

緩和ケアに関しましては、一昨年から緩和ケアの先生が大阪のほうから来て、病院の中に緩和ケアの病床を3つだけ持つていたんですね。1つの病棟に1床、違う病棟に1床というので地ならし的に3床だけあります。

新しい病棟が出来るということは今いる人材をどんな風に配置しようか、そこにどうゆう師長を配置してどうゆう係長を配置し、新しい組織を作っていくのかなというのを思い悩んでいます。



緩和ケア開設のために研修会を開きながら、部門長を育成していかなければ、すぐケアは出来ませんで、そういった準備を進めながら研修を修了しているのは誰なんだろうとか、緩和に関心ある人はどうなんだろうかということ、毎年看護師には意向調査を行っております。

もし退職の意向があればとか、勤務移動どこを希望しますかとか、新しく緩和ケア病棟ができれば、あなたは勤務出来ますかとか、その年その年で必要

なトピックスを含めながら、意向調査と調査しています。600数十人分の意向がどうゆうふうになるかということも毎年加味しながら実施しています。ただ100パーセント希望をかなえるという事はできないのが現実で、希望に沿いたいとおもっています。そこは何か、判っていたかなければならない部分かなということ

まず人員の確保、そしてその確保した人たちがちゃんと機能できるように、前から研修なども含めながら体制づくりを考えています。

看護部と私

逢坂 看護部長さんは人生の大部分を看護の世界でお過ごしになっていきます。楽しいこと、悲しいこといろいろ在ったと思います。家庭のことや日頃考えていることなど、差し支えない範囲でお話を願います。

上野 悲しいことは医療事故が起こることです。事故と云うのはあつてはいけないことだし、悲しいことだし、後に尾を引いてしまうという事で、忘れられないことですね。あと、家庭に関してですけど、私はおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に生活しているような状況です。子育てをしてきたながら仕事できたと思う



ところがありますので、家族には感謝しています。その子供はまだ独立してない状況でまだまだですが、すくすく育つて今大学院のほうにいつていきます。なんかこここまでやってこられて良かったと、周りの人に助けられてここにきてるなと思います。共に感謝しています。

仕事では副部長とか師長とかそういう人達に助けられて今、ここに自分が存在しているなと本当に感謝しながらいます。出来るだけその人達をサポートしたいなと思っております。やはり人のことだとか厳しく言わなければいけない状況もありますので、そこは病院全体のことを考えながら、今の立ち位置があるといえますのでね。そういつた意味で視野を広く持ちながらやっていかなければと思っております。

見た部分も言ってくださったほうが、有難いと思えますので、今後ともよろしくお願いいたします。

谷川 今回、念願がかなって看護部長さんを迎え、お話を聴く機会に恵まれ、病院の中のことが今までの何倍もよく見えるようになり、良かったなと思えます。これからは市民に向けて、このような場を作る努力をしていきいと思っております。

今日のご多忙の処、ありがとうございます。一同 ありがとうございます。

〈出席〉上野看護部長(北見赤十字病院)、廣川総務課長(同)、谷川(会代表)、逢坂(同副代表)、阿久津(同事務局長)、阿部孝(同会計)古澤(同監査)、表(同理事)、長南(同)、中田(同)以上。

地域完結型医療連携

## 地域が一つの病院のように

### 北見日赤とつながりを深めるクリニックを訪ねて

#### 藤江内科クリニック

私たちの機関紙「オホーツクの風」平成23年1月21日(金)新年号(0004)に「地域医療を考える・日赤の病院改築を機会に」を掲載しました。

日赤の勤務医の先生と診療所のかかりつけ医の先生が顔の見える信頼関係を築くことが出来れば、私たちは安心してかかりつけ医に診てもらうことができる、いわゆる「地域完結型医療連携」の実現がその内容でした。素人の私たちには、あまりにも大きな課題のため、なかなか次のステップへ一歩踏み出す機会に恵まれない、時が大きく過ぎてしまいました。

最近、日赤と信頼関係を築いている藤江内科クリニックの院長先生と面談する機会に恵まれ、当会の谷川さん、古澤さんそして逢坂がクリニックを訪れました。

#### 診療方針

①クリニックは身体・全身の病気を診る、言いかえると「医療のデパート」と考えています。私の専門は血液内科ですが、総合医を目指しています。

②私の勝手な解釈ですが、当院は日赤の外来部門の一部と

考えています。北見赤十字病院は高度医療拠点(2次・3次医療)であり、専門性を高めています。当院は広く浅く慎重に診療を展開。各々の役割を理解しながら毎日の診療に取り組んでいます。

③日赤の勤務医の先生との人間関係は

ceのコミュニケーションを心がけています。このことがお互いの信頼関係を深めていると考えています。

④前記の②・③をクリニック運営に生かし、日赤との医療連携を行っています。

北見赤十字病院の

#### 内部体制

⑤病気への強い執着と大きな心で患者に寄り添う。専門が血液内科でしたので白血球・血液癌・骨髄移植などの重い病気の患者さんと病棟でかわつてきました。

治りづらく、療養期間が長く、死の瀬戸際の患者さんと接する時、医療技術や検査データはもちろん大事ですが、それよりも患者の身になって、その人のその時の話しを聴くことが大切であると学び、日常の診療に生かしています。

ICT(インフォメーション&コミュニケーション)テクノロジー(ノロジー)を活用して、院内情報の共有を行っている。

院長の診療デスク



院内の看護部門、検査部門、事務部門などに8台ほどのPCが稼働している。カルテは勿論、電子化され、院内の各セクションと情報が共有されている。

院内のイントラネットはシステムエンジニアに、たよらず、院長が独自に構築した。いまでもネットワークに不具合が発生すれば、自らそれを発見して修理してしまう。



#### あとがき

藤江院長先生は私たちをこころよく迎えてくれ、1時間半ほど懇談することが出来ました。

先生は日赤と顔の見える信頼関係を築き、患者本位の医療連携を日常的診療で実現していました。私たちが目指す、「地域完結型医療連携」の「地域が一つの病院のように」を体感することが出来ました。ご協力、有り難う御座いました。

# 抱負と検査部門の概略(下)

総務課長・技師長補佐 廣川亮

当院検査部においても時代に遅れることなく技師各々が技術・知識の研鑽に積極的に取り組んでおり、各専門学会の認定資格取得者を見てみれば、27名が認定資格を有しており、道内他医療施設と比べてもトップの取得率を保持しております。

認定資格と聞いても「ピン」とこない方も多いかと思いますが、ここ十年くらいでしょうか、日本医師会をはじめとする各専門学会では、検査データや技術・知識の標準化を推し進めております。

所謂、どの病院で検査しても同じレベルで同じデータを患者様に提供できる体制・制度作り、および、ある一定レベル

を超える専門知識を有する人材を育成・評価する仕組みとなります。

これらは、全てが患者様への安心と安全に主眼を置いた取り組みと言えるかもしれません。

当院検査部では技師個々の知識・技術ばかりでなく、検査室がその評価対象となる臨床検査室精度保証施設認定を道内でもいち早く取得、認定を受けております。

地方にあっても都市部のデータ・技術・知識に負けない精度を維持し、患者様へ提供できるよう努めております。

臨床検査のお話のまとめとして、医師が病気を診断し治療していくためには、患者様の身体の状態を知らなければなりません。

身体の状態を知るためには、それにまつわる様々なサインを確認していくことが大切です。

この様々なサインを確認するためには診察がおこなわれ、それらを確かめるために臨床検査がおこなわれます。

患者様の身体から出るサインは、様々な形であらわれます。このサインを見逃すことなく、病気の原因を追求することが、臨床検査の重要な役割となります。また、臨床検査は病気の診断だけでなく、治療の方針を

決める大きな手助けにもなります。

治療経過の確認や重症度の判定、回復の度合いなどにも利用されているので

「ありました」

総務課 廣川 亨

## 編集後記

ウインターミーティング「看護部長を囲んで」、平成26年度第5回総会記念きたみ医療サミット・ウインター「PETはオホーツクの宝物」は皆さんのご協力が無事に閉会することができました。誠に有り難くお礼を申し上げます。

2つの行事のテーパー起しを阿久津事務局長が担当しました。根気のいる作業で、テキストは完成しました。お疲れ様でした。

5面の藤江内科クリニック訪問記事、6面の総務課長・技師長補佐の「抱負と検査部門の概略」は昨年夏の原稿です。掲載が遅くなり申し訳ないこと、そして本文の多くの部分で敬称を略しましたこと、お許し下さい。

(逢坂)

## 検査室の紹介

平均外来採血者数 : 215人 /日 全ての技師が担当します

平均検体検査数 : 1,589 検体 /日

平均生体検査数 : 200人 /日

夜間時間外検体数 : 24.4 件 /日



検査部(病理部)職員: 医師2名 臨床検査技師33名(嘱託1名) 助手1名

認定資格取得者 : 28/33名 (※ 複数取得あり 取得率84.8%)

認定 : 検査室精度保証施設 認定取得 (H22~)

細胞検査士(4名)、糖尿病療養指導士(3名)、認定超音波検査士(消化器4名、循環器2名、体表臓器2名)、NST専門検査技師(2名)、認定輸血検査技師(3名)、認定心電検査技師(1名)、認定一般検査技師(2名)、認定血液検査技師(2名)、未病専門指導師(2名)、認定臨床化学者(1名)

外部精度管理調査成績: 日本医師会 100.0点、日本臨床検査技師会 99.6点

認定取得技師数(率)・精度管理調査成績は3大学の上

Kitami Red Cross HP

患者様の身体から出るサインは、様々な形であらわれます。このサインを見逃すことなく、病気の原因を追求することが、臨床検査の重要な役割となります。また、臨床検査は病気の診断だけでなく、治療の方針を



す。もし、検査のことでわからないことがあれば、当院中央採血室の臨床検査技師に気軽にお尋ね下さい。笑顔で対応してくれるはずですよ。

拙いお話で非常にお恥ずかしい限りですが、終わりに「オホーツクの風」に寄せて、新病院建設工事は新年度の新館オープン、その翌年のグランドオープンに向けて着々と進んでおります。

地域に根ざし、地域の皆様と共に考え、成長できる病院であるよう職員一同頑張っております。

今後とも変わらぬご支援のほど、よろしくお願いたしましたこと、ありがとうございます。



ウインターミーティング「看護部長を囲んで」、平成26年度第5回総会記念きたみ医療サミット・ウインター「PETはオホーツクの宝物」は皆さんのご協力が無事に閉会することができました。誠に有り難くお礼を申し上げます。

2つの行事のテーパー起しを阿久津事務局長が担当しました。根気のいる作業で、テキストは完成しました。お疲れ様でした。

5面の藤江内科クリニック訪問記事、6面の総務課長・技師長補佐の「抱負と検査部門の概略」は昨年夏の原稿です。掲載が遅くなり申し訳ないこと、そして本文の多くの部分で敬称を略しましたこと、お許し下さい。

(逢坂)